

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成23年(2011) 11月10日
No. 47
発行 高津啓洋

パンタナール 水の恵みと共存

大湿地帯です。一年の半分が、水没し、半年は草地になるところが特徴的です。ここ植樹地域はある程度高さがあるため水没は免れていました。ところが今年、アルトパラグアイ地域で1988年の大洪水以来の水没となりました。

パンタナールは日本の本州ほどの80cmのところまで水没、大きな旅客船が陸地だったところを航行したそうです。今年は40cmまで水が上がりました。現在は頂点時



8月イペーの花が咲くころ水が下がりだしました



7月低地はほぼ水没

1988年代に事務所の柱の1mから、4m50cm水位が下がっています。「洪水で、植樹地域の水没が心配されましたが、深いところで40センチほど水が入りましたが、



朝焼け



見された植物の中で、最もバランスよく豊富な栄養素を含んでいるといわれるモリンガ。私たちはインディオの栄養補給にと以前から栽培をしていましたが、ここ最近パラグアイの人々から求められるよう

枯死は免れたと思います。大変困難なところですが、今後もきちっとメンテナンスをしていきますので」と、洪水が一段落して一時帰国した飯野貞夫元理事は話していました。

また、今回カピバラが人の住むところまで異常接近して、その生態観察がよくできたそうです。水没した建物の階段で、家族でのんびり過ごす姿がよく見られたそうです。

脚光浴びるモリンガ

地球上で発

になってきました。

特に私たちが栽培しているモリンガは、当然無農薬です。300種以上の病気を治療する木として、珍重されてきたモリンガ。葉は食用に、種子は高級オイルとして、また花は健康増進に使えて、捨てる場所がないのがモリンガの特徴です。そして癖もなく、野菜サラダにもよく合います。さらに国連の世界食糧計画にも取り上げられています。



成長が早いモリンガ